

# 心身症の季節を乗り切る

不況や会社の合併・買収などでサラリーマンはもみくちゃだ。そこに春の人事異動が重なるこれから3、4ヶ月は、精神的ストレスにやられ、体のあちこちに変調を来す心身症の季節でもある。この悔れない「サラリーマン病」の実例を紹介し対策を専門家に聞く。

## 春の人事異動のストレスが体の変調を引き起こす



悩みの原因是……

に関する「予期不安」を較的業績が上がっているなって、ささいなことに自分でどんどん膨らませて心身症を発症することで、Aさんは落ち着いていましたが、軽い精神安定剤を飲んでいたが国際クリニック・三木治きましたが、出向先が比院長)

仕事でミスをしてでもそれを注意されても笑う

ある薬品会社のTさんは、不安にさいなまる（30代）は、人一倍頑張りの屋の次期課長候補。ところが2年後輩の部下が大口契約をまとめてメキメキ業績を伸ばすと、「自分より先に課長に昇進するのではないか」と

悩んでしまった

（くづらちあき脳神経外科クリニック・工藤千秋院長）

## 悩みの原因が解決すればいいことないが……

人事異動で顔も見たくないほど嫌いな人が上司になつたKさん（20代）

（くづらちあき脳神経外科クリニック・工藤千秋院長）

「人の評価を気にせず

「これは頸性斜頸といつを飲み徐々に良くなつて、強いストレスによつたが、完全には治らなければいいんだ」と開き直れ

その二の舞いになるので、事中に突然、首が動かないで、強いストレスによつたが、完全には治らなければいいんだ」と開き直れ

左遷されたつて命まで

「自分は自分」とマイペースになることです。

「Aさんのように、人事では、業績不振の関連会社に出でて成績を上げられなれて、首や肩を動かしている。会社に申し出た異動を命じられるのかつた前課長は、肩たたきはないと不安でならきされて会社を辞めた。

中堅商社のA課長（40代）は、業績不振の関連会社に出でて成績を上げられなれて、首や肩を動かしている。会社に申し出た異動を命じられるのかつた前課長は、肩たたきはないと不安でならきされて会社を辞めた。

（くづらちあき脳神経外科クリニック・工藤千秋院長）

神経の興奮を抑える薬

「左遷されたつて命まで

「自分は自分」とマイペースになることです。

「これは頸性斜頸といつを飲み徐々に良くなつて、強いストレスによつたが、完全には治らなければいいんだ」と開き直れ

筋肉の伸縮がアンバランスが受け入れられた途端、ようになれば、道は開けていくはず。もちろん

人事異動で合併相手の精神科や心療内科を受診して治療を受けなければ、気銀行の支店の次長になつたHさん（40代）は、支持ちは薬になります」店長から「子飼い」の部（関谷透院長＝前出）の「開き直り」が難だ。だけど、飲みに誘つた。だが、専門家が勧めるのは仕事と関係のない人が多いですね。軽い精神安定剤を飲んでいたが国際クリニック・三木治していませんでした」（日比谷に注意されても二コニコしているばかりだ。逆らえない。そのうち支店長が自分の後ろを通るだけでも冷汗が流れ、めど、「非日常」を体験していくがするようになると、自分が苦しめていくこと。水泳、野球、樂器、山歩き、写真、絵など同時に異様に明るく